

富山大学大学院 生命融合科学教育部 特別講演会

講師： 近畿大学 薬学部 医療薬学科
有機薬化学研究室 教授

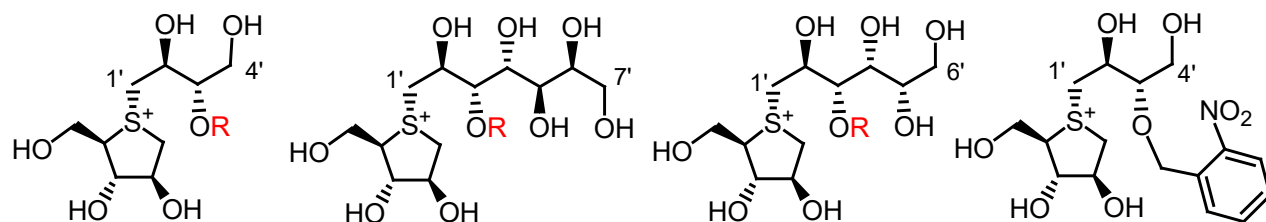
田邊 元三 先生

演題： Salacinol をシードとする高活性スルホニウム塩型
食後過血糖改善薬の合成と活性評価

日時： 令和7年10月17日（金） 15:00－16:30

場所： 富山大学工学部・多目的ホール

アーユルヴェーダ薬物 “*Salacia*” 由来の salacinol (1) は、糖尿病治療薬のアカルボース、ボグリボースに匹敵する強い α -グルコシダーゼ阻害作用を示す。また、1 は構造化学的にも珍しく、チオ糖スルホニウム塩の硫黄原子上にポリオール側鎖備えた構造を有する。本講演では、1 をはじめとする同植物から単離された関連スルホニウム塩 (2-6) 合成の一部を紹介します。また、類縁体の合成にも着手し、活性が 1 の約 40 倍の化合物 (7) の合成にも至ったので、構造活性相関研究の経緯についてもお話します。



salacinol (1) : $R = SO_3^-$ kotalanol (2) : $R = SO_3^-$ ponkoranol (3) : $R = SO_3^-$
neosalacinol (4) : $R = H$ neokotalanol (5) : $R = H$ neoponkoranol (6) : $R = H$

7

多数の皆様のご来聴をお待ち申し上げます。

連絡先： 豊岡尚樹 (富山大学工学部)
TEL : 076-445-6859
toyooka@eng.u-toyama.ac.jp